



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和元年10月号 第200号

(令和元年10月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◆最近の主な動き

・東京のまちづくり運動の輪を広げる集い開催 (都生会連)

10月2日(水)東村市・サンパルネ:41名参加 西村都生会連会長及び藤本事務局長の挨拶に続き、佐藤良子氏(立川市大山自治会前会長)より、「住民に必要とされる自治会づくり」を目指し、「人が人にやさしいまち」「ゆりかごから墓場まで」をモットーに団地住民の相談窓口や見守りネットワークの活動内容についての講演がありました。その後、グループ別に各団体の活動報告や会員の高齢化、後継者の育成等について話し合いました。



まちづくりの集い

・対話集会(食)開催 (都生連)

10月18日(金)東京都消費生活総合センター:53名参加 今年度のテーマは「食を通じた子どもの居場所づくり」。対話集会に先立ち、田丸都生連会長より日創協の事業説明が行われました。その後、宮嶋貴道氏(社会福祉法人北区社会福祉協議会子ども支援担当)より、北区の子ども食堂の取組状況についての講演。続いて、高齢者お食事会と初台キッズ食堂の合同食事会を開催した中筋桂子氏(初台生活学校)及び長谷戸子ども食堂やフードドライブに取り組んでいる宮代幸枝氏(長谷戸生活学校)の活動報告がありました。



対話集会

◆今後の日程

11月11日(月)	都生連 役員会	協会事務所 12:30～
11月20日(水)	都民フォーラム「地域活動は、今」	東京都教職員研修センター 視聴覚ホール 14:00～



おじゃまします 事務局です<114>



◆カタクリの会～全生園ウォーキング



ハンセン病資料館前

練馬区のカタクリの会は、月に三回のハイキング、ウォーキングの会を年間スケジュールに基づいて実施しているが、10月の予定に東村山市にある国立療養所多磨全生園ぜんじゅうえんに併設されているハンセン病資料館を目的地とした半日ウォーキングがあると知り、同行させていただいた。ハンセン病の元患者の家族に対して国に賠償を命じた判決により、今その補償にかかる法案の成立に向けた調整が進んでいるが、改めてハンセン病に



資料館入り口の母子遍路像

について考える機会となった会について簡単に報告させていただきます。

全生園は、全国に13カ所ある国立のハンセン病療養所の一つであり、その敷地に隣接して国立ハンセン病資料館、国立感染症研究所ハンセン病研究センターがある。今回、西武池袋線秋津駅を出発し徒歩で国立ハンセン病資料館まで行き、見学するのが今回の半日ウォーキングの内容である。

資料館への道すがら小さな公園で準備体操をする。これは、カタクリの会の習わしであるが、今回はたまたまその時間帯に樹木の選定中というちょっとしたハプニングに遭遇。しかし、作業の妨げにならない所で準備体操ができるよ



けやきと一人一木並木

う職人さんと交渉しことなきを得る。この辺は百戦錬磨のカタクリの会の面目躍如たるものと感心する。

資料館入り口に母子遍路像がある。昔、病気を知られず、迫害から家族を守るために、遍路にならざるを得なかった病者が、わずかな路銀を懐にお遍路さんをもてなすくお接待>にその日その日の糧を求めて、札所から札所へと旅を続けていたという。不自由な躰での札所の旅は厳しく、道半ばに倒れたお遍路さんも少なくなく、遍路墓には今もそうした悲しい歴史が埋もれているという。

資料館に入って学芸員の方から展示資料の概略の説明を受けたが、このすぐ後に近隣の100名を越える小学生が見学に来るといふ。その話を披露した時の学芸員の表情が、少し嬉しさをにじませていたように感じられた。小学生が、積極的にハンセン病を知り学ぶということは、ハンセン病にかかわる史実を知って欲しいと思う学芸員ならずとも、ありがたく嬉しいことだと私にも思われた。この後、小学生たちが大挙して館内を見学して回っていたが、真剣にメモを取りながら見て回る姿に頼もしささえ感じたほどである。館内の展示については、ハンセン病をめぐる歴史や療養所での生活、隔離されてなお人間的な生き方を求めて葛藤する人たち姿など、見応えのある内容となっている。それは、百万言を費やしても敵わない現実があるので、自らの目で見て感じるため、是非一度機会を見つけて訪問見学していただきたいと思う。

資料館見学を終わり解散となった後、資料館近くの納骨堂に手を合わせ、「けやきと一人一木並木」を通り、正門まで歩いてみた。広い敷地は静寂に包まれていたが、偏見や差別にさらされ隔離され続けた長い歴史を思うとき、その静寂がふさわしく必要なものかもしれないと感じられた。

◆日野第一生活学校、谷仲山Rの会～日野市 まちづくり市民フェア2019



日野第一生活学校



谷仲山Rの会とボランティア学生

台風19号の爪痕がいまだ残る10月20日、日野市市民の森ふれあいホールにおいて、「まちづくり市民フェア2019」が開催された。<日野第一生活学校>、及び<谷仲山Rの会>生活会議が参加しているので伺った。少し時間が早かったからか、まだ訪問者も少ないようだったが、会場のホールでは、オープニングの日野第一中学校吹奏楽部の軽快な音楽が鳴り響いていた。そのホールの一角に、日野第一生活学校のブースがあり、日本の伝統文化の発信を、古着を再生した猫ピンチ、ふくろう、おひな様、手まり等の細やかな手作業による作品を展示販売していた。ホール入り口脇では、谷仲山Rの会が焼きそばのブースで開店準備に勤しんでいた。もちろん、ただ焼きそばを作って販売するだけじゃなくて、マイ食器持参割引など「使い捨て」見直しの呼びかけも行うとのこと。残念ながら開店前の訪問のために焼きそばは食べられなかったが、大学生ボランティアを含め生き生きと働いている姿に、さぞや美味しい焼きそばができるだろうと、想像しつつ会場を後にした。帰路に台風19号で橋脚が破損して通行止めになっている日野橋を見たが、災害に備えることの重要性を改めて感じさせられた。



通行止めになっている日野橋

▽お知らせ **11月20日(水) 都民フォーラム「地域活動は、今」 東京都教職員研修センター 視聴覚ホール 14:00～** 地域活動は、今どのように行われているのか。地域を取り巻く環境の変化について考え、実際に地域で活動されている ①カタクリの会(会長:磯崎正)、②国分寺市高木町自治会(前自治会長:櫻井幹三) ③真光寺川を清流にする会(代表:山本隆治) から取り組みの実際をお話いただき、抱える課題と今後の展望について討論したいと考えています。事前申し込み不要の入場自由で、会場は600席ありますので、是非、お誘い合わせの上ご参加ください。



▽ひとこと 日野市のまちづくり市民フェア訪問の際、日野橋の惨状を見て、改めて豪雨災害の恐ろしさを実感しました。次々と来襲した台風がもたらした災害により、多くの人の命が奪われ、今なお避難を余儀なくされています。自然災害だからと諦めるわけにはいきません。温暖化が少しでも影響しているとするならば、やることは山ほどあります。後世に美田を残すためにも、今わたしたちが一生懸命に考え、行動しなければなりません。そんな決意を新たにす一方、東京のあすを創る協会が発行する「運動推進 NEWS」が今号をもって節目の**200号**となりました。創刊時に携わった先人から細々と伝え続けて200号。塵も積もれば何とやら諺もあるように、これまで発行し続けた蓄積が何かしらの役に立つこともあるかもしれません。これからは、これまでの蓄積を糧として、更なる内容の充実を図り、見た目も洗練の度合いを強め、読んで良かった、見て嬉しい、これは大事にファイルしておかなくちゃ、と思われるぐらいの運動推進 NEWS をお届けしようと考えておりますので、今後ともご愛読いただきますようお願いいたします。(竜)